

ウェットフィーディングにおける肥育豚の厚脂防止のための間欠給餌							
<p>[要約] 厚脂になりやすい肥育豚のウェットフィーディングは、肥育後期に1週間に2日断食する間欠給餌を実施すると、発育性はやや低下するが、厚脂がある程度抑えられ、赤肉割合が増加する。</p>							
畜産研究所・中小家畜部・養豚研究室					連絡先	092-922-4100	
部会名	畜産	専門	飼育管理	対象	家畜類	分類	指導

[背景・ねらい]

肥育豚に対しウェットフィーディングを実施することで、豚舎内の衛生環境が改善され、慢性呼吸器系疾病の発生が抑えられ、1日増体量が向上することを明らかにした。しかし、その一方で肥育豚、とくに去勢豚に厚脂が認められ、上物率低下の問題が生じた。

そこで、1週間に2日断食する間欠給餌（2日飼料給与後1日断食＋3日飼料給与後1日断食）により、ウェットフィーディングにおける去勢豚の厚脂防止を図る。

[成果の内容・特徴]

①発育性及び飼料利用性

肥育後期における間欠給餌の実施で1日増体量は約10%低下し、105kg到達日齢は数日遅延するが、飼料要求率は1.8%改善される（表1）。

②と体形質

間欠給餌を実施した去勢豚は、枝肉全体において皮下脂肪の厚さが1～2mm程度薄くなり、分割断面における赤肉割合も増加し、厚脂による格落ちが減少する（表2）。

③経済性

ウェットフィーディングにより厚脂が原因となり枝肉上物率が低下している農家で間欠給餌を実施することにより厚脂が減少し、上物率が18%向上した場合、母豚100頭規模で年間肉豚を2,200頭出荷する農家において経済性を試算したところ、年間枝肉販売高は約1,100千円増となる（表3）。

[成果の活用面・留意点]

ウェットフィーディング実施農家における厚脂防止対策として活用する。

[具体的データ]

表1 発育性及び飼料利用性 (平成4年)

区	供試頭数 (WL去勢) (頭)	試験開始		制限開始		105kg時		1日増体量		飼料要求率
		日齢	体重 (kg)	日齢	体重 (kg)	日齢	肥育後期	全期間		
									(日)	
間欠給餌	8	90	40.4	131	70.6	175	782	760	3.35	
対 照	8	90	40.8	131	72.7	168	873	823	3.41	

注) ①間欠給餌: 肥育後期(体重70kg~)に2日(日曜及び水曜)/週を断餌

対 照: 全期間不断給餌

②給与飼料: 豚産肉能力検定飼料(DCP: 12.0%、TDN: 74.5%)

③給 餌 器: 円筒型自然落下式ウェットフィーダー

④試験期間: 平成4年10月5日~平成5年1月12日

表2 と体形質 (平成4年)

区	皮下脂肪層の厚さ(mm)						赤肉割合(%)		格落ち (厚脂) 頭数
	背脂肪			ランジル部			胸椎4-5 断面	腰-仙椎 断面	
	肩	背	腰	前	中	後			
間欠給餌	38.4	18.8	29.0	29.0	22.9	31.3	44.1	44.6	2/8
対 照	40.8	20.3	29.8	30.1	23.6	32.1	41.7	42.4	5/8

注) 平均と殺体重: 間欠給餌区 114kg、対照区 111kg.

表3 経済性の試算

	母豚 頭数	年回 転率	1腹当り 生産頭数	枝肉格付		年間枝肉 販売高
				上物	格落(厚脂、その他)	
現 状	100頭	2.2	10頭	50%	50% (30%、20%)	77,000千円
改善例				68%	32% (12%、20%)	78,108千円

注) ①枝肉単価: 上物520円/kg, 格落480円/kg

②厚脂による格落ちが2頭/5頭(40%)に減少した場合

[その他]

研究課題名: 慢性呼吸器系疾病防止のための飼料給与技術

予 算 区 分: 経常

研 究 期 間: 平成4年度(平成3~4年)

研究担当者: 投野和彦、佐藤充徳、大和碩哉

発表論文等: 平成4年度畜産関係試験成績書